

第5回 まち・ひと・しごと創生会議提出資料

平成 27 年 4 月 14 日
富山和彦

- 新たなパラダイムの地方創生に向け、様々な動きが始動しつつあることについて、大変高く評価しております。
- 関係閣僚の皆様、そして地方創生本部の皆様をはじめとする関係者の皆様のご努力に心より敬意を表します。
- 他方、従来の「地方対策」的な政策慣性からの現実転換は、ここからが本当の勝負かと思えます。このことは地方の側にとって、よりリアルに大変なことです。
- 古い慣性を乗り越え、新たな方向への始動と加速に向けて、関係者の皆さんの断固たる決意と粘り強い活動を引き続き期待しています。
- 地方創生の鍵となる、地方経済における生産性・競争力の向上と雇用の質の向上（賃金上昇と安定雇用）は、非常に多様な改革・改善努力を、忍耐強く 5 年、10 年、20 年と持続することでしか実現できません。イノベーションもそうした持続の中から生まれます。
- その始動ドライバーは何と言っても人材です。時間軸で言えば、「ひと⇒しごと⇒まち⇒ひと・・・」という循環だと思えます。
- 各地域で作られる地方版総合戦略においても、また中央の側の横串的な政策メニューにおいても、その実現には

地域の経済と社会を実際に様々な立場で担っていく人材が必要です。たとえば多くの地方にとって基幹産業となり、かつ医療介護などの社会的課題を担うサービス産業の生産性向上の鍵を握るのは人口分布の密度を高める政策、すなわちコンパクトシティー化、コンパクトタウン化です。そしてここでもその実現の最大の鍵は、非常に長い時間を要するコンパクト化を粘り強くリードする人材ですが、現状、モノへの政策的な支援はあっても、ヒトへの支援を効果的、長期的に行う政策的なプラットフォームは存在しません。老壮青の各年代の人材、さらには将来を担う若年層人材の質と量を高めることについて、地に足の着いた現実感のある政策が具体化されることを期待しています。

- 最後に現実の生産性向上には、産業や企業の新陳代謝の活発化は不可避です。地域の産官学金労言を通じて、そこで生じる痛みを受けいれる覚悟と、他方で弱い立場の個々人の人生を壊さない、むしろ人生の可能性が広がり、より豊かになるきっかけになるような仕組みを用意する必要があります。このことについても、地方、中央の両方の政策立案・遂行者の工夫と覚悟と頑張りを期待しています。

以上